令和８年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　　１４７　大泉小学校

令和８年１０月

	課題分析	授業改善策
１年	・体育においては、ほとんどの児童が意欲的で、楽しく、また仲良く運動することができる。 ・国語「読むこと」に課題のある児童が目立つ。１学期終了時点で、音と文字が対応できず、50音の中に読めないひらがながある児童は５名。（１組２名、２組２名、３組１名。）	・誰もが今もっている力で友達と関わりながら楽しむために、スモールステップで取り組めるようにしたり、場やきまりを工夫したりする。児童が見通しをもち、また動き方をイメージしやすくするために、スライドやボードを使用して視覚的な支援を行う。 ・「読むこと」については、絵のついた50音表を準備し、必要な児童が適宜活用できるようにする。７月の個人面談で家庭での協力をお願いした。（入学までに文字への興味が全くない児童については、早めに支援を受けたり支援シートを提出してもらったりするよう、園や新１年の保護者へ呼びかける。）
２年	・体育においては、楽しみにしている児童も多く、積極的に取り組んでいる。一方、体の動かし方がぎこちなかったり、特定の領域において経験が少なかったり、苦手意識をもつ児童もいる。 ・計算力に大きな差がある。	・楽しみながら取り組める活動を工夫する。カードなどを用いて、達成感を味わわせる。 ・計算カードやます計算などを用いて、反復して取り組ませる。家庭学習でも取り組めるようにする。
３年	・体育においては、大概の児童は積極的に取り組んでいる。一方、活動に対する不安や失敗への恐れから、特定の領域において苦手意識をもつ児童もいる。 ・「書くこと」における知識・技能が不十分である。	・苦手意識がある児童が、少しでも取り組むことができるように、簡単かつ楽しさを味わいやすい運動を取り入れる。また、普段からいろいろな児童と関われるようにペアやグループを構成する。 ・技能面を集約したモデル文を常時掲示し、普段の学習の書く活動の際に活用させる。
４年	・体育においては、楽しみにしている児童が多く、意欲的に取り組む姿が見られる。一方、体力差や技能差が大きく、特定の領域において苦手意識をもっている児童もいる。また、チームや友達のよい面に注目できる児童もいるが、勝敗にこだわり自分本位な行動をとる児童もみられる。 ・算数の基本的な知識や技能に大きな差がある。	・苦手意識がある児童が意欲的に取り組めるように、児童と話し合いながら、運動特性に合わせた場やきまりを工夫して設定する。また、個人のめあて、チームのめあてを関連付け明確化し友達との関わりを増やしていくことで、勝敗にこだわるのではなく、体育を通して「何を学ぶか」ということに意識を向けられるようにしていく。 ・１００ます計算やプリントなどに反復して取り組ませ、基本的な知識や技能の向上を図る。
５年	・体育においては、ほとんどの児童がどの領域においても意欲的に取り組むことができる。しかし、自身の技能を気にするのみで、友達のよさを見付けたりアドバイスをして、みんなで向上していこうとすることに課題が見られる。また、投力が弱い児童が多い。 ・算数においては、基本的な知識・技能は積み重なってきたが、思考を伴う問題について、苦手な児童が多い。	・これまでの経験が十分でない部分もあるので、アドバイスの仕方を身に付けさせたり、それによる成功体験を積ませたりすることで、お互いに高め合える関係を築いていけるようにしていく。また、体つくり運動や休み時間などを通して、投げ方を身に付けさせていく。 ・数字や言葉だけを頭で処理せず、ノートに絵や線分図を描いて状況を可視化させたり、言葉で表現させたりして、思考力向上を図る。
６年	・体育の学習に対して、9割程度の児童が「好き」または「どちらかというと好き」と回答しており、運動に対して極めて肯定的な態度を有している。また、約7割の児童が体育の授業を「増やしてほしい」と回答しており、学習に対する意欲が高いと考えられる。 ・算数の基本的な知識や技能に大きな差がある。	・課題を正しくつかみ、練習の場を選ぶことができる児童を育成するために、課題に応じた練習を選択できるようにしたり、ICT機器を活用し、目指す運動のイメージと撮影した自身の運動を比較することで課題を正しく理解してめあての設定ができるようにする。 ・算数の単元の終了時に、自分の言葉で分かったことをノートに振り返ることを通して、自分の「考え方」をメタ認知 させ、自分の学び方そのものを捉える力を高める。
５組	・身体を動かすことが好きな児童が多く、体育の活動に対しても旺盛な意欲を持ち、新しい課題にも積極的に挑戦しようとする態度が見られる。勝敗の受け入れが難しい児童もいる。 ・在籍学年が１～６年と幅広く、バランスをとる、力加減を調整するなどの「自己の身体を巧みに扱う動き」には個人差が大きい。	・言葉だけの指示では指示通りに動くことが難しいことに対して、見本を見る「模倣」による理解が得られるよう指導や支援を行う。 ・児童が見通しをもてるよう、集団で動く際にルールや活動内容などを授業の始めや活動前に示す。